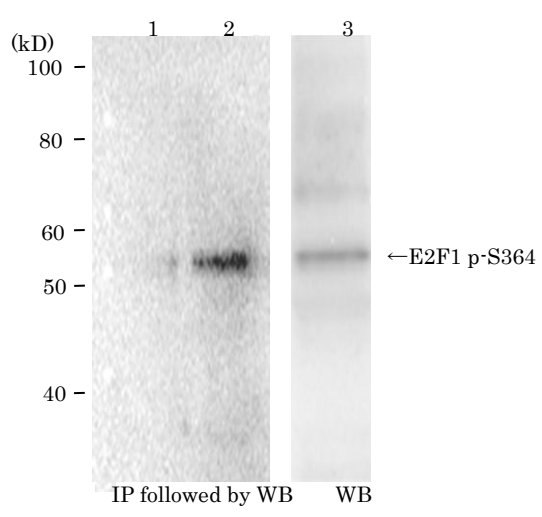


抗 E2F1 p-Ser364 抗体、マウスモノクローナル(#2)

商品コード	71-151
容量	100 µg
保存	-20°C
濃度	1 mg/ml
バッファー	PBS- with 50% glycerol
純度	ハイブリドーマ培養上清から proteinA で精製した
抗原	ヒト E2F1 タンパク質の phospho-Ser364 を含む合成ペプチド
アイソタイプ	マウス IgG2b κ
反応性	ヒト。他の動物ではテストしてない。
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (~1µg/ml) 2. ELISA 他の用途は調べていない。
背景	E2F1 タンパク質は共通の構造と機能ドメインをもつ E2F グループに属し、転写因子として動物細胞における G1/S 期移行に重要な役割を果たす (1)。E2F1 は DNA 損傷にตอบสนองして、Chk2 キナーゼによって Ser364 がリン酸化され、安定化され、核に移行して、転写因子として活性化される (2)。E2F1 は p53 のホモログである p73 の転写を活性化して、アポトーシスを誘導する (3)。E2F1 タンパク質は 437 アミノ酸より成り、分子量が約 46 kDa である。
Data Link	UniProtKB Q01094 (E2F1_HUMAN)
画像	 図. モノクローナル抗体 # 2 を用いた Ser364 がリン酸化された E2F1 タンパク質の同定。 MCF 細胞を DNA トポイソメラーゼのインヒビターである Etoposide (10 µM) 存在下 (レーン 2、3) または非存在下 (レーン 1) で 16 時間培養して、細胞粗抽出液を調製して、#2 抗体を用いてウェスタンブロットで解析した (レーン 3)。 レーン 1、2 はパントロピックな抗 E2F1 抗体で免疫沈降してから # 2 抗体でウェスタンブロットした。
文献	- Trimarchi JM & Lees JA "Sibling rivalry in the E2F family." <i>Nat Rev Mol Cell Biol</i> 3:11-20(2002) PMID: 11823794 - Stevens C et al "Chk2 activates E2F-1 in response to DNA damage." <i>Nat Cell Biol</i> 5:401-409 (2003) PMID: 12717439 - Irwin M et al "Role for the p53 homologue p73 in E2F-1-induced apoptosis." <i>Nature</i> 407:645-648 (2000) PMID: 11034215
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	